

東部保健所 別府地域(別府市・杵築市・日出町)感染症情報

令和6年第37週(9月9日～9月15日)

・マイコプラズマ肺炎について

東部保健所別府地域では、マイコプラズマ肺炎患者の報告数が増加しています。

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」に感染することによって起こる呼吸器感染症です。小児や若い人の肺炎の原因としては比較的多いものの一つで、1年を通じてみられますが、冬にやや増加する傾向があり、これから警戒が必要な感染症です。

主な症状は発熱、倦怠感、頭痛、痰を伴わない濁いた咳などの症状がみられます。特に咳は熱が下がっても3～4週間程度しつこく続くのが特徴です。感染力はそれほど高くありませんが、家族間・学校・職場の同僚など接触時間が長い人の中で広がりやすく、また潜伏期間が2～3週間と長いので知らず知らずのうちに細菌を広げてしまうことから“歩く肺炎”とも呼ばれています。

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

東部保健所別府地域ではA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の報告数が増加しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、高熱・咽頭痛・嘔吐を主症状とする細菌性の感染症です。2～5日の潜伏期間の後、38度以上の発熱、咽頭痛、リンパ節の腫れ、嘔吐などが見られます。熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱(しょうこうねつ)」に移行することがあります。排出された細菌が手などを介し、口に入ることによって感染します(経口感染)。予防策としては、衛生管理の基本である手洗い、うがいの励行が非常に重要かつ有効です。受診して薬を処方された場合は最後まで飲み切りましょう。

(第37週)

疾患名 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻疹(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
0歳		0.20	0.67			1.00		0.33		0.17	0.17		0.17				
1～3歳		0.30	2.33	0.17	0.67	4.33		1.67		0.67	0.33		1.83				
4～6歳			0.33		2.50	2.33		0.17			0.50		1.17				
7～9歳	0.10				0.83	2.00		0.17			0.33	0.17	2.00				
10～14歳		0.20			0.67	1.67							1.17				
15～19歳		0.10				0.33											
20歳以上		2.40			0.17	0.33							0.17				
今週	0.10	3.20	3.33	0.17	4.83	12.00		2.33		0.83	1.33	0.17	6.50				
70歳以上(再掲)		1.30															
先週	0.10	3.70	3.67	0.17	3.50	10.83		4.83		0.83	1.17		3.67				

指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上しています。
(定点医療機関数;インフルエンザ/COVID-19定点 10、小児科定点 6)

疾患ごとの警報・注意報の基準値

※単位は定点あたり報告数

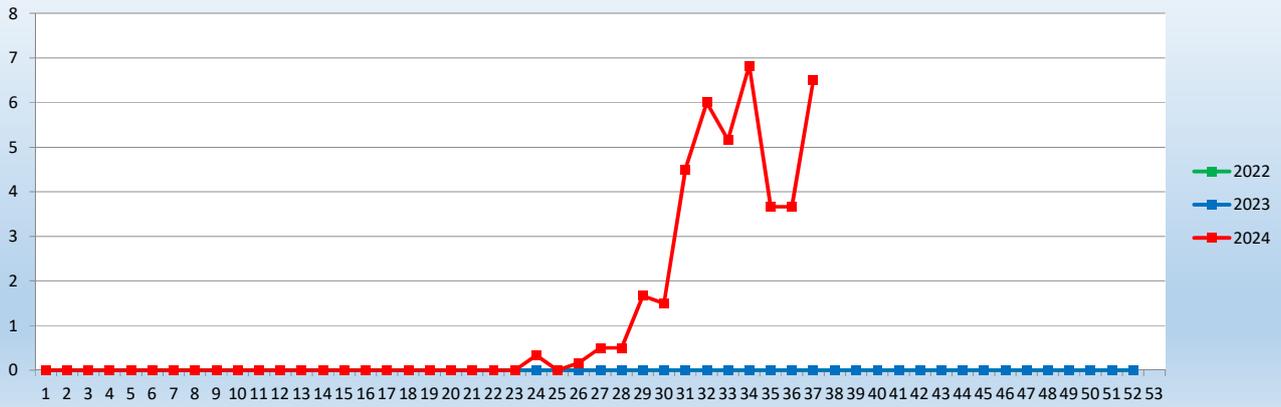
	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10
咽頭結膜熱	3.0	1.0	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-
感染性胃腸炎	20.0	12.0	-
水痘	2.0	1.0	1
手足口病	5.0	2.0	-
伝染性紅斑	2.0	1.0	-
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-
流行性角結膜炎	8.0	4.0	-

警報レベル: 大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。

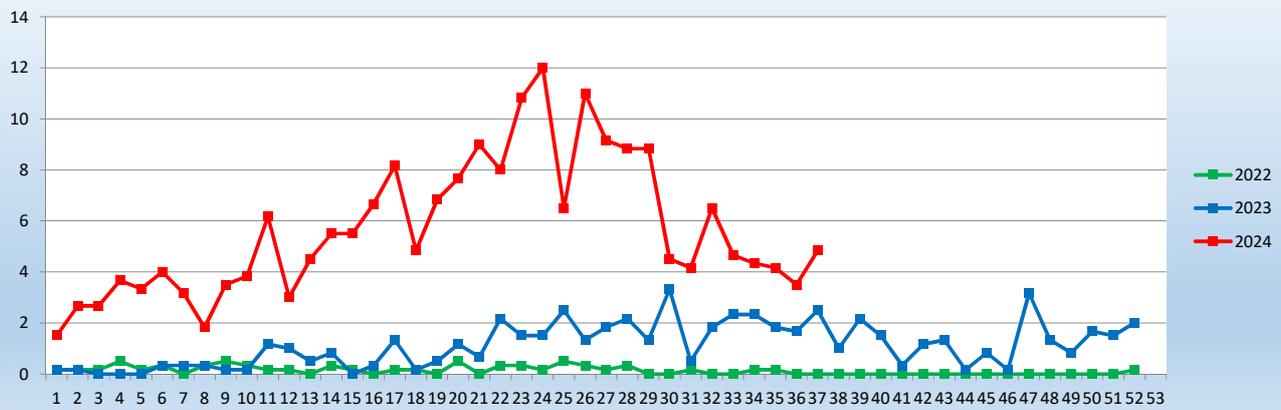
注意報レベル: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

過去3年間の発生動向(別府地域)

定点当たり報告数 マイコプラズマ肺炎



定点当たり報告数 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



定点当たり報告数 RSウイルス感染症

